第２学年音楽科学習指導案

日　時　令和４年１１月１４日（月）３校時
対　象　第２学年１組
授業者　宮城教育大学附属中学校
　　教諭　板橋　薫

１　題材名　「ソナタ形式」について知り，聴き方を広げよう

２　題材の目標

『交響曲第５番　ハ短調　作品 67 より第１楽章』の曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴き，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組む態度を養う。

３　題材について

（１）題材について

本題材は，中学校学習指導要領音楽科の目標に向かい，内容「Ｂ鑑賞」ア(ｱ)「曲や演奏に対する評価とその根拠」及びイ(ｱ)「曲想と音楽の構造との関わり」に依拠する。〔共通事項〕に関しては，「音楽を形づくっている要素」の中から「形式」を重点化し，その学びの過程において「リズム」や「旋律」に着目させる。音楽の構造を捉える観点として「ソナタ形式」という考え方に生徒が出合い，音楽を聴く際の思考の対象を広げることを通して，音楽的な見方・考え方を働かせ，生活や社会の中の音や音楽,音楽文化と豊かに関わる資質・能力の育成を目指す。

（２）生徒の実態

本学級は穏やかで朗らかな雰囲気を持ち,男女分け隔てなく率直に意見を伝え合う姿の見られる集団である。

「形式」に関わる学習経験としては，『四季』より「春　第１楽章」(A.Vivaldi)の学習に取り組む中で「リトルネッロ形式」に触れたり，表現領域において「二部形式」に触れながら『浜辺の歌』の歌唱表現に取り組んだりしてきた。しかし，いずれも「（楽器や声の）音色」，「旋律」及び「強弱」を知覚の主たる対象としたため，「形式」を焦点化した学習指導には位置付けてこなかった。第２学年においては『フーガ　ト短調』(J.S.Bach)の学習に取り組み，多声部で主題が出現することを聴き取る活動を通して「フーガ」の特徴を捉えた。この場合においても，「フーガ」の形式的な理解を目指すために，作品全体を俯瞰的に捉えて曲想と音楽の構造との関わりを考察するというよりは，主題が重なったり組み合わさったりすることによる響きを味わうことを主眼としたため，「音色」，「旋律」及び「テクスチュア」に焦点を当てた題材としての位置付けであった。

（３）指導に当たって

指導に当たっては，『交響曲第５番　ハ短調　作品67より第１楽章』(L.v.Beethoven)を教材曲とする。この作品の本質的な美しさの根拠は，次の点などに起因するような，音による構造の妙であると考察する。

- 休符から始まり，３つの同一音から重心のかかる音へと推移して構成される「動機」が，第１楽章の第１主題を構成するものであることに留まらず，作品全体の「動機」として様々に展開しながら全楽章を貫いて出現していること。
- 第１楽章において，「動機」が作品全体を敷き詰めるように用いられていることにより，情動に働きかけるように絶えず聞こえてくること
- リズムや旋律線の起伏，調性，使用楽器の違いなどによって，２つの主題のコントラストが明確に提示されること

「形式」に着目した学習指導を行うに当たり，交響曲よりも“ピアノソナタ”や“ソナチネ”を用いる方が，よりソナタ形式を理解しやすい(させやすい)のではという点に関して，しばしば音楽科の学習指導を考える上で議論されることがある。こうした論点から，『交響曲第５番』を教材とするならば，オーケストラの響きを味わうことを軸とした学習指導とすることも可能であ

る。しかし，本題材を通じて，生徒が楽器の音色や旋律に着目するだけでなく，作品をマクロに捉えようとすることと，細部の工夫を聴き取ってみようとすることの両面から交響曲を聴こうとすることが，音楽の味わい方の広がりや深まりにつながる学習経験になると考えた。

さらに，「知識」に関する指導事項イ(ｱ)「曲想と音楽の構造との関わり」において，中学校学習指導要領解説編では「第２学年及び第３学年では，第１学年の学習より，更に詳細に音楽を捉える視点をもって，音楽の構造についてより深く理解できるようにすることが考えられる。また，第１学年で教材として取り扱う曲よりも，複雑な構造をもった曲を取り上げることも考えられる」と示されている。このことからも，生徒にとってこれまで聴いてきた楽曲よりも比較的長く，オーケストラの多彩な響きから重厚な印象を受ける作品を学習材として取り上げることにより，本題材で新たな知識を得たり，これまでの学びを生かしたりする中で聴き方がどのように変容するかを捉えさせたいと考えた。

題材は全３時間で構成し，第１時で一度通して聴いた上で「ソナタ形式」の概要を知り，第２時で「動機」の働きに焦点を当てる。第３時では提示部と再現部を取り上げ，２つの主題の印象の違いを調などを根拠として考察させる。学びを踏まえて，作品を再度通して鑑賞し，第１時で聴いたときと学習を経て聴いたときとの差異や変容を自己分析することを含めた鑑賞文をまとめの活動と位置付ける。

この学習の基盤として，作品全体を俯瞰し，音楽のまとまりを枠組みとして捉える考え方が求められる。楽式論の観点から音楽を捉えることは，多くの生徒たちにとって当たり前ではなく，学習指導の中で意識させることによって芽生えるものである。このことから，題材全体の導入では音楽から枠組みを感じ取るという着眼点に向き合わせ，「形式」の学びにつなげていくこととしたい。

４　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
「交響曲第５番　ハ短調　作品 67 より第１楽章」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	「交響曲第５番　ハ短調　作品 67 より第１楽章」のリズム，旋律，形式や要素同士の関連を知覚し，それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら，知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに，曲や演奏に対する評価とその根拠について考え，音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	音楽における形式に関心をもち，音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

５　指導と評価の計画（全３時）

時	◆めあて　〇主な学習内容・活動	知・技	思	態
		〈 〉内は評価方法		
1 本時	◆ 音楽を「形」で捉えるということについて考える。 〇 枠組みを意識しながら楽曲を聴き，音楽の中の「形」を捉える。 〇 『交響曲第５番　ハ短調　作品67より第１楽章』を通して聴く。 〇 「ソナタ形式」の概要を知る。			
2	◆ 「動機(モティーフ)」に着目しながらソナタ形式の作品を聴く。 〇 前時の復習 〇 音楽における「動機(モティーフ)」について知る。 〇 仲間と共にスコアを見ながら提示部を聴き，動機がどのように出現しているかを探る。	知〈フォーム，観察〉		

3	◆ 動機や主題に着目して，『交響曲第５番 ハ短調 作品67より第１楽章』を鑑賞する。 ○　前時までの復習 ○　第１主題と第２主題に着目し，印象の違いの根拠を探る。 ○　第１楽章を通して鑑賞し，学習を通して作品の聴き方がどのように変わっていったかを含めた振り返り(鑑賞文)を記述する。		思〈フォーム〉	態〈フォーム，観察〉

６　本時の指導に当たって

（１）本時のねらい

「形式」に着目して交響曲を味わうために，音楽を「形」で捉えるということについて考える。

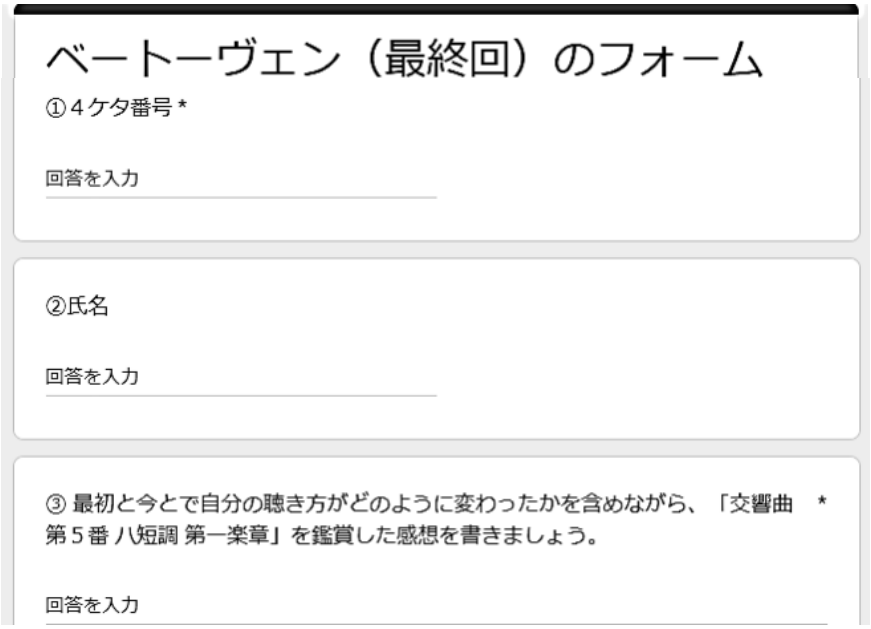
（２）指導過程（本時）

学習活動・予想される生徒の反応	○ 指導上の留意点　◇ 評価
１　挨拶･常時活動(ストレッチ，発声練習)	○　音楽室の入室時に端末の準備をさせ，音楽科の Google Classroom に各自ログインした状態にしておく。
２　音楽を「形」で捉えるということについて考える。 （１）　アニメを通して，ストーリーの枠組みを意識化する。 ・　『ドラえもん』は，のび太にトラブルが起こるんだけど，ドラえもんが四次元ポケットから道具を出して解決してくれる。 ・　『コナン』は，事件が起こって犯人を探しているときに，コナンが別の人に成り代わって犯人を突き止めてくれる。	○　題材全体の学習内容を伝え，見通しを持たせる。 ○　音楽についての学習活動に入る前に，『ドラえもん』と『名探偵コナン』を例として，それぞれのストーリーからパターンの存在に気付き，意識させる。 ○　いずれかのアニメをあまり見ない生徒がいる場合は，周囲の仲間との会話や全体での発言を通してストーリーを捉えさせる。
（２）　ストーリーの枠組みがあることの効果について考える。 ・　解決するって分かっていても，話の展開が気になるから ・　キャラクターがかわいいから ・　笑ったりドキドキしたりするのを楽しむことができるから ・　最終的には解決するって分かっていると，なんとなく安心して見ることができるから	○　「話の流れが分かっているのに，私たちはなぜ見てしまうんだろう」と問い掛け，枠組みがあることの効果について考えさせる。考えたことは，音楽科の Google Classroom のストリームに考えを記入させる。 ○　教師用端末の画面を電子黒板で表示し，ストリームのコメント欄を読み上げるなどして紹介する。
（３）　ポピュラー音楽を通して，曲の中の枠組みを意識化する。	○　ポピュラー音楽を話題にし，A メロ→B メロ→サビの流れでできている楽曲を聴くことを通して，「枠組みを捉えようとしながら聴く」ということを意識させる。
（４）　A メロ→B メロ→サビの流れでできている曲がなぜ多いかについて考える。 ・　だんだん盛り上がって一番印象に残る部分が来ると，気持ちも一緒に盛り上がっていく感じがするから ・　サビが印象に残りやすいから ・　サビが来るって分かっていること	○　「この流れでできている曲が，私たちの周りにはなぜ多いのだろう」と問い掛け，周囲の仲間との会話や全体での発言を通して自分なりの考察を持たせる。 ○　ポピュラー音楽の定型に限らず，音楽には枠組みを示す様々な「形式」があり，この授業ではその中の「ソナタ形式」について学ん

もあって，聴きどころが伝わりやすいから	でいくということを伝える。
3　『交響曲第５番　ハ短調　作品 67 より第１楽章』を一度通して聴く。	○　「ソナタ形式」の作品として『交響曲第５番　ハ短調　作品 67 より第１楽章』を聴くことを伝え，映像資料を用いて通して聴かせる。 ○　本時と最終時とで，生徒が聴き方の変容を捉えることができるよう，この時点では「ソナタ形式」の詳細は伝えないこととする。
4　「ソナタ形式」の概要を知る。	○　『ドラえもん』の登場人物で例えながら，提示部(第１主題・第２主題)，展開部，再現部，終結部(コーダ)という枠組みを伝える。
5　本時の振り返り 6　挨拶･片付け	○　各部が作品のどの箇所と対応するかなどの詳細は次回学ぶことを伝え，本時の振り返り（この時間に考えたこと）を Google Form で提出させる。

７　資料

（１）ワークシート（Google Form）



（２）最終時のフォームから

最初と今とで自分の聴き方がどのように変わったかを含めながら，『交響曲　第５番　ハ短調　第一楽章』を鑑賞した感想を書きましょう

・　最初はなんとなくすごいなと思いながら聴いているだけでしたが，授業を通して，聴いていて雰囲気が変わったからここで第二主題に変わったなとか，似た感じのリズムや音が何回も繰り返しているからモティーフかなと考えたり，「形」や「型」を意識して音楽を聴けるようになったと思う。最初は自分が「あ！ここ知ってる！」ってところしか注目して聞いてなかったけど，今回はコーダに向かって盛り上がっていくところとか提示部と再現部で似ているところ，違うところに注目して聴くことができた。また，演奏している人の細かい強弱や抑揚の付け方などの工夫

や技術も感じることができた。

- 最初は，ただ繰り返しが多い迫力のある曲だとしか感じませんでしたが，授業を受ける中で，ソナタ形式には提示部に加え，再現部もあり，聴き手の印象に残るなど作曲者の意図や工夫を味わいながら聴けるようになりました。まず，提示部の動機の音と再現部の動機の音が全然違って，提示部より再現部のほうがオーケストラ全体でさらに盛り上がっていると思いました。また，提示部の第二主題は提示部の第一主題とは違って穏やかな曲調で，第一主題と第二主題の分かれ目がホルンの動機のリズムになっていて印象的に感じました。また，私は，カラヤンの演奏が強弱やモティーフが強調されていて好きでした。フォルテで盛り上がった後の一瞬の休符がシーンとした何気ない静かさを貴重なものにする感覚がありました。
- 最初は音楽が生み出す背景を想像しながら聴いていたのですが，今は音楽の楽器が生み出す音に聴き方が変わっていました。なんとなく荒々しく感じたのは，太鼓や弦楽器が中心に鳴っているところだったとも分かりました。最初に聴いたときは，派手な曲で似た音が繰り返しでてきているとしか感じなかったのに，今では曲に対していろいろなことを考えることができるようになりました。また派手なところだけではなく，提示部の第二主題のように落ち着いた雰囲気のところもあることが分かって，長調か短調かも気にしながら聴くことができるようになりました。
- 初めは「聞いたことある曲で思う部分なんて…」と思っていました。でも，ソナタ形式を学んでからこの曲に対するイメージがとても変化し，「いつも聞いていた部分は第一主題だったのか」と曲に対する理解度が上がりました。第一と第二主題が変わるところに今までは気にすることも考えることもなかったですが，短調から長調へ変化していたことから緩やかな特徴になっていたことが分かり，より曲に興味を持つきっかけになりました。他にも，日常生活の中で，聞いたことのある曲は色々あると思うので，今回の授業を通し，普段自分が気にしたことのない部分に目を向け，聞くことも良いなと思いました。
- 最初はこの曲に対してドーンと響くような重いイメージやたくさんの音が入り乱れて激しめな音楽というイメージを抱いていました。しかし動機やソナタ形式について学び，スコアを見たりして曲を細部までしっかり聴いて，重いだけでなく第２主題はなめらかな印象を感じたり，よく聴いているとただ音が入り乱れているのではなく動機が様々なところで奏でられていてこの曲全体を支えているのだと感じたりしました。今回形式について学ぶことで普段は気づくことのできない曲の良さや作者の工夫に気づくことができました。
- 最初に聞いたときは，形式になっているかも分からなくて，ただ迫力のあるのとゆったりとしたものの繰り返しだけに感じましたが、授業を通して掲示部・展開部・再現部・終結部がそれぞれどこからどこまでなのか分かってベートーヴェンってすごいなぁと思いました。特に，第一主題から第二主題に変わるところと，展開部で第一主題と第二主題が混ざっているみたいなところが聴いていて面白かったです。また，スコアを見ることによって，ここでフェルマータが使われているので音が止まるということがすぐ分かるようになったり，使われている楽器が分かりやすく，強弱も感じ取りやすくなったりして，今までと比べると曲をしっかり聴けていると実感することが出来ました。再現部ではただ再現するのではなく，少しアレンジを加えているのもいいなと感じました。